

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第11回会議議事概要

開催日及び場所	第11回会議 平成22年10月4日(月) 内閣府5階特別会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 交告 尚史 (東京大学大学院公共政策学連携研究部教授) 委員 小林 麻理 (早稲田大学大学院公共経営研究科教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士)
議事	○平成22年度 第1四半期の契約に係る審議 ○応札の状況について ○その他

○平成22年度 第1四半期の契約にかかる審議	
審議対象期間	平成22年4月1日～平成22年6月30日
対象案件の説明	○対象期間における契約の全体(内閣官房181件・内閣法制局11件・内閣府479件)について事務局から説明 ○審議案件の抽出の考え方について当番委員から説明 抽出にあたっての関心事項 ・総合評価落札方式を含む一般競争入札を重点的に抽出 ・落札率の低い案件については、事業が適正に履行されたかどうかを確認 ・一者応札で落札率が100%のものを抽出する さらに以下の観点から各案件を絞込み
審議抽出案件	5件
【競争入札】 最低価格落札方式	(官)1件 比較対象(府)1件 (関心事項) 落札率が100%となった理由は何か。 一者だけの応札だが、応札用件に1者しか入札できないような規制があったのか。内閣官房と内閣府本府で、契約の相手方の棲み分けをおこなっているのか。 契約件名：燃料電池車(5ドアステーションワゴンタイプ)の賃貸借 契約相手：トヨタ自動車株式会社 契約金額：10,211,349円 契約日：平成22年4月1日 担当部局：内閣官房内閣総務官室(会計)
【競争入札】 最低価格落札方式	契約件名：燃料電池車(普通乗用タイプ)の賃貸借 契約相手：本田技研工業株式会社 契約金額：10,080,000円 契約日：平成22年4月1日 担当部局：大臣官房会計課
【競争入札】 最低価格落札方式	(官)1件 (関心事項) 落札率が低いだが、同事業は適正に履行されているのか。 契約件名：北朝鮮による拉致問題に係る北朝鮮向けラジオ番組の制作業務 契約相手：株式会社ノーネーム 契約金額：6,300,000円 契約日：平成22年4月1日 担当部局：内閣官房拉致問題対策本部事務局

<p>【随意契約】 企画競争</p>	<p>(官) 1件 (関心事項) 落札率が100%となつた理由は何か。一者のみの応募だが、応募要件に一者しか参加できないような規制があつたのか。</p>	<p>契約件名：画像分析官の教育訓練（初級・中級）の委嘱 契約相手：財団法人リモート・センシング技術センター 契約金額：109,830,000円 契約日：平成22年4月22日 担当部局：内閣官房内閣衛星情報センター</p>
<p>【競争入札】 最低価格落札方式</p>	<p>(法) 1件 (関心事項) 落札率が低い、同事業は適正に履行されているのか。</p>	<p>契約件名：電話交換機設備一式の購入及び電話交換機等の保守業務一式 契約相手：扶桑電通株式会社 契約金額：3,139,500円 契約日：平成22年4月1日 担当部局：内閣法制局</p>
<p>【競争入札】 最低価格落札方式</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 落札率が低い、同事業は適正に履行されたのか。同社が落札している、落札率の高い「平成22年版交通安全白書の印刷・製本等」、「平成22年版自殺対策白書の印刷・製本等」、「平成22年版障害者白書の印刷・製本等」、「平成22年版食育白書の印刷・製本等」との比較も行う。</p>	<p>契約件名：平成22年度年次経済財政報告の作成 契約相手：印刷通販株式会社 契約金額：1,312,500円 契約日：平成22年4月1日 担当部局：大臣官房会計課</p>
<p>委員からの意見・質問 それに対する回答等</p>	<p>別紙のとおり</p>	
<p>委員会による意見の 具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	

意見・質問	回答
<p>1 燃料電池車（5ドアステーションワゴンタイプ）の賃貸借</p>	
<p>○ワゴンタイプ、セダンタイプともに賃貸借を行っている会社は国内業者では一者しかない。観念的に外国企業が参入できるということで、競争入札としているが、競争が実質化されているといえるのか。</p>	<p>○国内企業に限定した仕様書ではないので、外国企業も参加意志があれば入札することは可能なはずである。</p>
<p>○形式的に競争入札にすること自体に意味があるのではないので、本件のような案件は随意契約にしたほうが透明性が増すと思う。</p>	<p>○随意契約にする理由がこれだというのがなかなかなかった。また、できるだけ広範に募集しようという趣旨からすると、どうしても一般競争入札という価格競争の形を取らざるを得なかった。</p>
<p>○ワゴンタイプの入札とセダンタイプの入札をあわせてみると、手続の正当性について、疑問をぬぐいきれないので、実質的競争環境が確保されていたかどうかについて調査いただきたい。</p>	<p>○実質的に外国企業が参入できる環境にあるのかどうか、宿題ということで受けとめさせていただきたい。</p>

2 北朝鮮による拉致問題に係る北朝鮮向けラジオ番組の制作業務

○落札業者がここまで安い価格を出せたというのは、やはりノウハウがあったからか。	○番組制作会社がたくさんあるなか、今後の実績につなげていくということなのだろうと思う。原価的には無理しているのではないか。
○低価格の場合、契約内容を履行できるかどうかを確認する手続きはあるのか。	○仕様書で求めている水準を事前の段階で指示するとともに、成果物をCDで納品していただき、事務局職員が実際に聞いて内容をすべて確認している。

3 画像分析官の教育訓練（初級・中級）の委嘱	
○従前もこの会社が落札していたのか。何年もずっと同じか。	○平成16年度から事業を実施しており今年度が7年度目になるが、毎年この会社である。
○ほかにこういうことをやっている会社はないのか。	○安全保障に特化した教育ができるのはこの一者のみである。
○評価基準の採点を見ると、初級は十分満足というのはいくつかあるが、中級に関しては、教材については全部満足だけれども、十分満足というのはいくつかもない。	○評価基準については、今まで受けてきたものは大体満足であるというような評価基準になるように設定している。従って、前年度と同じ提案では満点にならず、よりすばらしい提案だと満点に近づくという考え方でやっている。
○他に参入するところもないと、前年どおりのものをしていけば良いので、もう少しよりよいものを提供しようというのが業者にはない。競争が働けばもう少しよりよいものかと考えると思う。	○教育が終わった後に受講者の所見を得て、教官サイドに要望ということで、更にアップした教育ができるよう申し上げている。
○随契約の場合、質を高めるためにどのような工夫をしているのか。	○退官した分析官を教官として再任し、自前で教育することができないかということを検討しており、そういうことが翻って会社にとって一つの危機になり、レベルを上げていくということがあり得るかもしれない。
○こういうタイプの随契約のときに、教育効果の達成度みたいなものを設定できるのあれば、それを達成したときと、逆に達成できなかったときにある意味ディスインセンティブみたいなものを契約の中に入れ込むことはできるのか。	○形のあるものを結果として、成果が出るか出ないかというのは判断しやすいが、レベルの話だと受講者のレベルもあるので正否の判断が難しい。

4 電話交換機設備一式の購入及び電話交換機等の保守業務一式

○落札率が低いですが、事業は適正に履行されているのか。

○5月に電話交換機の工事を行ったが、毎日電話を使用している職員からも特にクレームはなく、施工工事については特に問題はない。

5 平成22年度年次経済財政報告の作成

○年次経済財政報告の落札率が他の白書に比べて極端に低い理由は何か。また、適正に履行されているのか。

○白書類は内閣府への納品とは別に、事後的に市販用の刊行承認を行っている。年次経済財政報告はこの部分が他の白書に比べて多く、落札者はこうした状況を総合的に判断して入札に応じたものと思われる。なお、履行状況に問題はない。

○応札の状況について	
<p>○一者応札の場合、競争条件がないものを形の上だけ競争入札にすることにどれだけの意味があるのか。いっそのこと極論で随意契約にし値切るといふ方向もあると考えられるのではないのか。</p> <p>○一者応札で、落札率が限りなく100%に近いという問題点もあると思う。</p> <p>○何でも一般競争入札という前提に縛られているようだが、むしろ企画競争にした方が良いものが適正な価格で得られる場合があるなら、もっと自由に考えてもいいのかもしれない。</p>	<p>○一般競争入札が一者応札になってしまう原因とそれを解消するためにどういふ方法があるかという切り口の論点から次回議論したいと思う。</p>

○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・入札時の独法人件費の取り扱い ・平成22年度会計事務監査実施方針(案) ・一般競争入札案件(役務契約)の品質確保対応策について事務局から説明